

第1回八王子市景観計画策定等検討会議

- 会議録 -

平成20年10月10日

本庁舎903会議室

八王子市景観計画策定等検討会議事務局

会議名	第1回八王子市景観計画策定等検討会議												
開催日時	平成20年10月10日(金曜日)午後6時00分~午後8時35分												
開催場所	八王子市役所 本庁舎9階 903会議室												
出席委員	<table> <tr> <td>倉田 直道 委員</td> <td>亀山 章 委員</td> </tr> <tr> <td>高見澤 邦郎 委員</td> <td>田口 敦子 委員</td> </tr> <tr> <td>吉田 愼悟 委員</td> <td>今泉 満政 委員</td> </tr> <tr> <td>大津 和文 委員</td> <td>町田 典子 委員</td> </tr> <tr> <td>加賀谷 盾夫 委員</td> <td>小池 正男 委員</td> </tr> <tr> <td>花形 久美 委員</td> <td></td> </tr> </table>	倉田 直道 委員	亀山 章 委員	高見澤 邦郎 委員	田口 敦子 委員	吉田 愼悟 委員	今泉 満政 委員	大津 和文 委員	町田 典子 委員	加賀谷 盾夫 委員	小池 正男 委員	花形 久美 委員	
倉田 直道 委員	亀山 章 委員												
高見澤 邦郎 委員	田口 敦子 委員												
吉田 愼悟 委員	今泉 満政 委員												
大津 和文 委員	町田 典子 委員												
加賀谷 盾夫 委員	小池 正男 委員												
花形 久美 委員													
欠席委員	角館 政英 委員												
市出席職員	まちづくり計画部長 西田 和夫												
事務局	<table> <tr> <td>都市計画室主幹 西山 忠</td> <td>都市計画室主任 西澤 篤司</td> </tr> <tr> <td>都市計画室主査 久田 伸之</td> <td>都市計画室主事 福土 大介</td> </tr> </table>	都市計画室主幹 西山 忠	都市計画室主任 西澤 篤司	都市計画室主査 久田 伸之	都市計画室主事 福土 大介								
都市計画室主幹 西山 忠	都市計画室主任 西澤 篤司												
都市計画室主査 久田 伸之	都市計画室主事 福土 大介												
議題	<p>1 開会</p> <p>(1) 委員の紹介</p> <p>(2) 市側出席職員の紹介</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 会長及び副会長の選任</p> <p>(2) 会議の公開に関すること</p> <p>(3) 今後の進め方について</p> <p>(4) 八王子市の景観について</p>												

公開・非公開の別	公開
傍 聴 人	2人
配付資料	<p>〔事前配付資料〕</p> <p>資料1 八王子市景観計画等策定に向けて</p> <p>資料2 第1回 八王子市景観計画等検討会議 討議資料</p> <p>〔机上配付資料〕</p> <p>次第</p> <p>検討会議委員名簿</p> <p>検討会議設置要綱</p> <p>会議の公開に関する指針</p> <p>会議録の作成要領</p> <p>都市景観セミナーチラシ</p>

〔午後6時00分開会〕

【議事（１） 会長及び副会長の選任】

- ・ 会長に倉田委員を選出
- ・ 副会長に亀山委員を選出

【議事（２） 会議の公開に関する事】

- ・ 会議については原則公開とし、非公開事項がある場合はその都度検討する。

【議事（３） 今後の進め方について】

- ・ 事前配布資料１に基づき事務局から説明。

【議事（４） 八王子市の景観について】

- ・ 事前配布資料２に基づき事務局から説明。

【議事（４）を受けて各委員からの主な意見】

委員)

- ・ 八王子市（北野台）に転入して10年。住んでいる北野台は、住宅地として近隣の絹ヶ丘や片倉台と併せまちなみはきれい。住宅の間に小道もある。
- ・ 八王子は、遠景の山々が美しく、毎日の夕焼けに感動していた。
- ・ 主な行動範囲は北野、みなみ野、南大沢など。時々、狭間のイトーヨーカドーや八王子駅にも出る。ただ、バスを使わなければならない、生活には不便で自動車が不可欠。
- ・ 色彩に関心がある。電柱や信号など、北野台ではコンクリートの打ちっ放しだが、みなみ野ではダークグリーンの信号、ガードレールはブラウン、南大沢ではライトブラウンの信号機、東急スクエアでは黒を使用、国道20号沿いのバス停がダークブラウン、といった、自然の景観を意識した美しい色彩に力を入れているまちなみはきれいだと感じる。
- ・ 国道20号線（甲州街道）沿いとJR八王子駅前を歩き、信号機やバス停を見学してみたが、商店街のまちなみに統一性がないように思えた。横山町の新しいアーケードの色に関して、ライトグレーで、屋根は彩度が高いブルーグリーンを使用しているものなど、鮮やかすぎて、まちなみから浮いているように思えた。甲州街道には、古い蔵があるなど、伝統あるまちなみのイメージを持っているので、そのイメージに合わせた色合いを大切にしていけたらと思う。
- ・ （資料2 12ページ）八王子市民は景観や風景、街並みへの関心が高い。そのことを、まちづくりに生かせるのでは。

委員)

- ・ 14～5年前に多摩ニュータウンへ転入。景観が美しいまちなみと言われているが、初期に開発された地域は住民の高齢化が進み問題になっている。初期に開発された頃の集合住宅は、4、5階建てでエレベーターなしが多く、高い階の高齢者は困っている。
- ・ また、自然の緑を保存するためメインの道路の両側に幅50メートルぐらいの林を残し、その奥の小高いところが住宅地になっている場所が多い。景観としては美しいが、メインの道路から距離があり、坂になっているので、特に高齢者は不便を感じているようだ。
- ・ バブル崩壊後、未利用地だった土地が約10%程度あったが、そこに民間の事業者がマンションを建設している。以前から住んでいる者にとって、高さや緑の配分などに違和感を感じる。
- ・ 電線類が地中化されている通りがある一方、電柱がある通りには電柱に看板が付けられている。
- ・ 住んでいて、今までの景観が崩れてしまっているように感じる。
- ・ 近隣では、府中市が景観行政団体になっており、住宅地の外壁の色の統一や、高い塀を造らないことなど事業者と細かい決まりをつくっているというニュースを見た。八王子市が景観行政団体になれるよう、市民として何かお役に立てれば、と考えている。

委員)

- ・ 八王子市には30年近く在住している。
- ・ これまで、建築設計や都市計画に関する業務に携わってきて、景観が如何に大切なものであるのかを実感してきた。
- ・ 一つの建物がいくら頑張ってみてもまちなみは美しくならない。まち全体が美しくなるための方向づけが必要。
- ・ アンケート結果「八王子は景観を配慮していない」に同感。駅ビルも壁みたいでひどい。何か方法があるのではないか。
- ・ 駅周辺での再開発事業など、市街地が変化していく中、如何にコントロールしていけるか、といったことが必要になってくるだろう。
- ・ 景観を考えるうえで、単に「見栄えが悪いから変える」だけでなく、たとえば日照、生活の利便性、安らぎなど、暮らしやすさの実現も目指すべき。
- ・ ヨーロッパなどのように厳しい規制や公聴会の開催など、景観のコントロールは必要。
- ・ 自然環境に関しては充分取り組まれているが、行政には自ずと限界があり、その場所をよく知っている住民の意見を広く取り込み、活動として持続させていく仕組みが必要。
- ・ そのためには、ワークショップなどを行い景観に対する意識を高めていくことも必要。

特に子ども（児童生徒）を巻き込まなければならない。

委員)

- ・ 35年ほど前に転入。
- ・ 八王子市は人口56万人と多く、歴史も文化もあり、高いポテンシャルがある。ただ、おしゃれな店がない。また、こういった意見をよく耳にする。
- ・ まちづくりを考えると「マルベリーブリッジ」の役割は大きい。NPO団体によるお花を植えるなどの活動がなされているが、どう演出していくかが大切。人が集い、発展があり、感動を与えるランドマークとして活用すべき。
- ・ 「まち」を元気にするには、商業を早急に活性化しなければならないが、そのための回遊性が足りない。回遊性を高めるためにも、駅前の放射線道路など、道路景観を考えていくことが大切。だからといって、立川の真似はすべきでない。
- ・ 音や色なども重要。いろいろな演出などを考えていくことがあっていいのではないか。
- ・ 経費をかけなくても「感性」があればまちづくりはできるのではないか。

委員)

- ・ 八王子市在住50年。
- ・ 以前は京王八王子駅のところにあった陸橋から八王子駅側を見ると富士山がくっきりと見え、大学に通う際に勇気付けられた記憶がある。
- ・ 「浅川に清流を取り戻そう」のテーマで、19年間ボランティア（浅川川下り）をしている。清流をかなり取り戻したが、山林や田畑がなくなり保水量が減ったせいか水量が減っている。
- ・ 自分としては、仕事柄その敷地を対象に、建築主の想いを受けて、良いまちづくりのために頑張っているつもり。ただ、鳥瞰でまちを見たときに、現実にまちは良くなっていないことを体感として実感している。
- ・ 建築家やデザイナーは規制に縛られることを嫌うが、やはり、ガイドラインのようなものは必要なのではないかと感じている。
- ・ 外国の専門家の人たちを連れて、東京を案内した時、汐留のような近代的で計画的なまちなみより、月島のような古くて庶民的で狭い路地を持つまちに対して非常に興味を示した。これは思っても見なかったこと。

委員)

- ・ 市のまちづくり条例策定の際にも関わった経緯がある。個人的にまちづくりの勉強をしていて、興味がある。

- ・ 「まちづくり」と「景観」は一体、だからこそ「八王子の景観」を大切にす視点が不可欠。地区ごとに具体的に考えていくことが必要。
- ・ 高尾や陣馬など良い景観はあるが、これからは、八王子の旧市街地の景観をどうしていくのか考えるべき。
- ・ 「八王子の景観」を大切にするには「 を～色に」「 に～を植える」といったレベルではなく、根本的な視点が必要。
- ・ 自分の住んでいるところは郊外で、土地も低価格なせいか若い居住者が増えている。他方、市内で一番困っているのは、最近増えている築40年前後のマンション。どこも同じような年齢層が居住していて、高齢化が進んでいる。マンションに限らず、若い人が入居（居住）できるまちづくりが必要。
- ・ 多摩御陵といった貴重な場所がいろいろあり、市民が集まれるような場所づくり・まちづくり、地域に応じたまちづくりの具体化に取り組んでいくことが大切。

委員)

- ・ 専門は環境色彩計画。フランスに留学し、地域の建材との関係で「地域には地域の色がある」ということを勉強した。
- ・ 調べてみると、日本の景観にも地域ならではの色の傾向があり一定の範囲には収まる。出石や城崎など歴史的な地区など、大きな群・まとまりとしての色があり、建材の影響などあるだろうが、新しい建材を使用しても大きく崩れているものはない。
- ・ 地区としてまとまりを持たせることが必要。これまでは地域の色の傾向を基準にして、そこから大幅に外れる色（特に鮮やかさ）を規制していく（「ネガティブチェック」ということを行っている。
- ・ これまでの「色彩基準」による「ネガティブチェック」というレベルにとどまるものではなく、地区ごとにまちの雰囲気を感じられるように、色や素材のまとまりを統一するような検討をしていったらよいのではないか。
- ・ ただし、基準や数値だけで運用していったら、まちは面白くならないと感じている。みんなが体感できるような、創造的なルールづくり、まちづくり条例と兼ね併せて色、形、素材など地域の人たちがルールを体感できるような育っていくような取り組みができるといいのでは、と感じる。

委員)

- ・ 広告表現計画を30年以上専攻しており、大学が八王子市に立地していることもあって最初に調査を手がけたのは八王子市なので、思い入れがある。
- ・ 八王子は典型的な首都圏の郊外都市。商業施設が郊外に進出することで広告物が住宅地、

緑の中に入り込んでくる。

- ・ 広告メディアであり、情報を伝えるもの。規制を強化するのもいいが、何より「広告物とは何か」といった原点を考えるべき。なぜ商業者が公共的な空間で私的な情報を流すのかを考えないと規制に説得力が持てない。
- ・ 景観は、行政区域内だけの問題ではない。富士山の景観のように、行政区域を跨るような景観もある。そのことを念頭に置き、検討する必要がある。
- ・ 里山や田園など農村景観について、人の手が入った二次自然の緑をどのように捉えるか、みどりの景観として一括りにしてしまいがちだが、文字通りの「自然」と人間の手が入った「二次自然」とは根本的に違う。こういった背景の元で議論をしていきたい。

委員)

- ・ 行政では、まちづくり条例等を制定し、地区計画の制度が活用できるように支援している。
- ・ 八王子市では国立市で起きたようなマンション建設に伴う景観紛争のようなことは無いのか。景観条例による準備が前もってできない状況で、ある日突然地域にとってそぐわない建設計画が法律の範囲内で計画される。行政は何もできない。住民にとっては何か変だと感じながらも法律の範囲内ということで戦う気力も起きない。
- ・ 計画や条例での対応、手段がいろいろあるが、地区計画はそうたやすくできるものではない。地区計画ができないことで、行政が何もできないということの言い逃れに使われている面もある。
- ・ 八王子市にそのような状況があるのなら、何かあった時に住民の想いを受けて活用できる手段も考えるべき。
- ・ 八王子市における景観のカギとなるのは「丘陵」。東京都の景観施策の中でも位置付けられており、これまでの運用で何か良いことや困ったことは無かったのか知りたい。
- ・ 八王子市における「丘陵」の位置付けを緑のマスタープランなどで確認しておくべき。

委員)

- ・ 自分が子どもの頃は、近辺で「大都市」といえば八王子であった。
- ・ 八王子市は自然の資源や文化財に恵まれている。文化財の数は、都内で一番多い。ただこれらが意識されていない。
- ・ また、市として独自の取り組みや条例もあるなど、行政もよくやっていると思う。にもかかわらず、アンケートを見ていると、評価が低い。不思議。なぜ八王子市の評価は低いのか....。
- ・ それは、アンケートを行う際、大都市であるにもかかわらず全体を1つの単位としてい

るからである。そのやり方はよくない。八王子市は、色々な古いまち、新しいまちの集合体であり、多様な景観を持っている。全体を一面的に見ることはできない。きめ細かく見る必要があり、いろいろな課題がでてくるだろう。

- ・ 景観行政はある種の運動論と考えている。景観行政を通じて市民の意識を変えていくということが大事。その結果、市民は八王子はいいと感じるようになるのが目標と考えている。

委員)

- ・ 景観とは地域(住民)のあらゆる営みが外に表われたもの。景観はトータルなまちの有り様。そのため、表層的なもの(見た目)だけ取り繕っても良くなるものではない。
- ・ 景観を大きく変えたのは経済活動。特に最近の急速な車社会。歩くことが中心だった頃は、人々はまちの細かいところを意識していた。車の速度でまちを見ていくと広告看板も大きくなるなど表現が変わってくる。
- ・ 景観を考える上で、土地利用なども含めて総合的に捉えていかないといけないのでは、と考えている。行政の縦割りの仕組みを景観という切り口でつなぐことができる。
- ・ 景観法だけでまちは良くなるものではない。「景観法に基づく景観計画、景観条例をつくる」という趣旨で検討を進めるだけでなく、既存の仕組み、計画とどう関係づけていくか議論できたら良い。
- ・ 東京都の景観の議論の中、骨格づくりをする、ということを重視して議論した。
- ・ 検討会議では、八王子市の骨格的な景観に関する議論と、「市民目線」での身近な景観に関する議論の両方が必要。

質疑応答

委員)

- ・ 多摩ニュータウンで、商業施設が開設することで屋外広告物が流行りだすのでは...という危惧がある。現在、感覚的に不快なのは八王子駅前の広告看板の林立。市レベルでは限界があるのかも知れないが、今回の条例の中で対応できないか。

委員)

- ・ 何らかのコントロールは必要だが、議論すべきことがあまりにも多い。

委員)

- ・ 看板など、屋外広告物は景観の中で大きな要素。ぜひ、検討会議で議論したい。

〔午後8時35分閉会〕